

委員からの主な意見と対応状況（活力分野）

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
<b>1 第4次産業革命への対応と新たな成長産業の育成</b>			
1	第1回活力部会	IoTなどの考え方がここ数年で急速に進んでいるが、(県内企業のうち)7割を占める中堅・中小企業に対してその考えを浸透させる意味からも、県の「IoT活用ビジネス革新研究会」、「企業間連携実現協議会」の取組みを単年度だけで終わるのではなく継続して進めることが重要。	【主な施策】の1として、「IoT、AI、ロボットの導入など新たなものづくり基盤の強化」について記載している。 本年9月に県内の産学官金の関係者が集い、意見交換などを行う「富山県IoT推進コンソーシアム」を設立したところであり、今後も県内企業のIoT導入を促進し、生産性向上及び新たな付加価値の創造につながるよう、取組みを進めてまいりたい。
2	第1回活力部会	第4次産業革命への対応について、中小企業にどのように普及させるかが課題。1社でできないとすれば、業種・地域単位で束になって対応することが重要で、そのためにもAIやロボットなどの先端技術導入を支援するための産学官金あがての仕組み、例えば導入支援センターのようなものが必要である。	【主な施策】の1として、「IoT、AI、ロボットの導入など新たなものづくり基盤の強化」について記載している。 本年9月に県内の産学官金の関係者が集い、意見交換などを行う「富山県IoT推進コンソーシアム」を設立したところである。また、IoTを導入して生産性の向上を図るモデル的な取組みに対する助成やIoTを用いた設備の導入に対する融資を実施しており、今後も意欲ある県内企業のIoT導入に対して支援してまいりたい。
3	第1回審議会	産業基盤の維持拡大のためには高付加価値の新規分野の開発と労働生産性の拡大が必要である。高付加価値化にはブランド化の推進が必要である。	活力1の【取組みの基本方向】において、先端ものづくり等の分野における新たな成長産業の育成や、IoT等の技術を活用した労働生産性の向上と新たな付加価値の創出の促進について記載している。 また、ブランド化については、活力7の【主な施策】の1に「伝統工芸品などのデザインを活かした魅力的な商品の共同開発と販路開拓」を記載しており、様々な施策を推進することで、ブランド化の推進に取り組んでまいりたい。
4	第1回総合部会	今後担い手不足が避けられない時代になることから、AI技術に頼る分野と人がやる分野のすみ分けが必要となる。	【取組みの基本方向】及び【主な施策】に記載のとおり、人手不足の克服のためにはAIやIoT等の技術を活用した労働生産性の向上が重要であり、本年9月に設立した「富山県IoT推進コンソーシアム」を通じて意欲ある県内企業のIoT導入を推進し、労働生産性の向上や付加価値の創出に向けて支援してまいりたい。
5	第2回活力部会	ナノテクや航空機産業はこの10年で目に見えるようになっており、あと10年経てば物になると思う。一方、ロボット産業については、県内にも世界に冠たる企業があるのに今一つ不十分であることから、県の支援が必要。	【主な施策】の2において、ロボット産業の育成について記載している。 セミナーやワーキンググループ等を通じて県内ものづくり企業におけるロボット分野の研究開発の活性化や新規参入の促進に取り組んでまいりたい。
<b>2 医薬・バイオ関連産業の育成など、世界の「薬都とやま」の確立</b>			
6	第1回活力部会	ベトナムなどでは中国やインドから安い薬が入っている。付加価値の高い製品を作って、日本に買いに来るといった感覚が大切であり、さらに開発力を高めていくことが重要。	【取組みの基本方向】において、県内企業等が有する高度な製剤開発力・製造技術力の強化と付加価値の高い製品の開発・製造の支援について記載している。 今後も新たな成長分野(バイオ分野など)への参入促進や研究開発力・技術力の向上などを通じた付加価値の高い製品の開発・製造への支援に取り組んでまいりたい。
7	第2回活力部会	医薬品の生産額が全国で1位となったが、その容器は県外から仕入れている場合が多い。産学官金で連携し、周辺産業の開発への支援が必要。	医薬品関連産業の連携を推進するため、【取組みの基本方向】及び【主な施策】の3に「医薬工連携の推進」を記載しており、企業間のマッチングや新製品・技術の開発を積極的に支援してまいりたい。
8	第2回審議会	新製品の開発に係るクラスターについては、小さくまとめるのではなく、グローバルにやっていくような考え方をすれば、医薬品産業の1兆円産業化と周辺産業の発展が期待できるのではないかと。	同上
9	第2回活力部会	今後ロボットに置き換えられる仕事も多くなるので、ロボットが苦手である芸術、クリエイティブ、創薬などでの人材育成を重点的に進めることが必要。	活力2の【取組みの基本方向】において、「本県の医薬品産業を支える人材の育成」について記載し、また、新たに【主な施策】の2として「医薬品産業を支える人材の育成」を掲げ、関連施策を記載している。今後、さらなる産学官連携の強化等を通じて、グローバル化に対応した医薬品産業を支える専門人材の育成に取り組んでまいりたい。 また、活力7の【主な施策】の3において、「デザイン人材の育成」について記載しており、県内企業とデザイン系学生とのマッチングの促進や、最新のデザイン手法を学ぶセミナーの開催などを通じ、デザイン人材育成の推進にも取り組んでまいりたい。

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
<b>3 産学官の連携によるものづくり産業の高度化</b>			
10	第1回活力部会	「生産技術の向上」がベースにあることを認識して「インダストリー4.0」「IoT」などを進めていかないと、取組みの方向性を見失ってしまう。中小企業の生産技術・品質を上げるという方向性を持って、工業技術センターに生産管理の専門家・専門チームを配置するなどすることが、県内中小企業の向上に役立つのではないかと。	中小企業の生産技術・品質を上げるという方向性に対しては、【取組みの基本方向】において、公設試験研究機関の最先端設備などの活用によるものづくり技術の高度化・製品の高付加価値化の促進について記載している。 平成29年度末までにもものづくり研究開発センターに整備予定の「製品機能評価ラボ」を活用しながら、工業技術センターの職員が、企業の生産技術・品質評価を支援していくこととしている。
11	第1回活力部会	県内にはものづくりなど沢山の産業があるのに、互いに違う産業のことを知らないのは非常に問題。新しい産業が生まれる可能性につながるので、産業をつなぐ施策、富山の企業を知ることを各企業に周知することが必要。	【取組みの基本方向】において、本県の強みであるものづくり技術を活かし、企業や公設試験研究機関、大学等が連携するオープンイノベーションによる新製品の開発の推進等について記載している。 また、今年度、県内企業の連携によるコンソーシアムによる、製品の商品化に向けた研究開発を支援し、新技術・新製品の開発を促進していくこととしている。
12	第1回審議会	産業基盤の維持拡大のためには高付加価値の新規分野の開発と労働生産性の拡大が必要である。労働生産性向上には将来への企画開発研究が必要である。	【取組みの基本方向】において、最先端設備を活用した産学官共同研究の推進や、高度なものづくり人材の育成について記載している。 特に、今年度、試験研究機関への大規模な最先端設備の導入を予定しており、これらを活用しながら、企業の研究開発や、企画開発に取り組める高度なものづくり人材の育成に貢献してまいりたい。
<b>4 起業チャレンジへの支援</b>			
13	第2回活力部会	起業塾について、首都圏においてターゲットを絞って受講者を集め、経営や創業、起業のノウハウだけでなく、富山の環境を徹底的にPRすることが必要。	今年7月に東京交通会館で実施された「とやま移住・転職フェア」において、とやま起業未来塾の案内とあわせて、富山県の魅力についてもPRを行ったところである。今後ともこうした機会を利用して、県外の方に富山の環境や起業の魅力を発信していく。
<b>5 人口の増加・定着に結びつく多様な企業の立地</b>			
14	第1回活力部会	観光人口もさることながら、定住人口の拡大が大事。定住人口の増大という観点から、企業の誘致に積極的に取り組んでほしい。	【取組みの基本方向】や【主な施策】において、立地環境を整備し、若者や女性の雇用につながる本社機能・研究開発拠点や、成長性の高い企業等の誘致の推進などについて記載している。
15	第2回活力部会	シリコンバレーほどの規模ではなくても、同様な産業集積を富山でもできたらいい。県内の大学などと連携すれば、大学卒業生の定着率がもっと上がり、外部からも人が集まると思う。	活力5の【主な施策】の2において、若者や女性の雇用につながる本社機能・研究開発拠点等の誘致の推進など、また、活力10の【主な施策】の2において、新たな成長産業の育成や企業誘致等による魅力ある職場の確保や新たな雇用創出などについて記載している。
16	第2回活力部会	ものづくりの基盤の裾野が広がる企業の誘致についても計画に含めてほしい。	【主な施策】の2において、「ものづくりの基盤の裾野が広がる企業の誘致」についても記載している。
17	第2回活力部会	首都圏から地方へ移住・定住を希望する若者は、住環境や食などの暮らしの質だけでなく、子どもが就学年齢になってからの費用の問題といった教育の質も重視しているので、そのあたりの手立ても必要。	【主な施策】の1において、企業立地促進のための生活環境の整備等の検討について記載している。
<b>6 中小・小規模企業の総合的な支援体制の強化</b>			
18	第1回活力部会	中小企業の販路開拓・商品開発を支援する3つのファンドのうち2つ(地域資源活用ファンド、農商工連携ファンド)が終了予定であり、次期総合計画でぜひ再組成して継続してもらいたい。	地域資源ファンドについては、現在の金利状況において十分な運用益が確保できないことから、ファンド廃止の方針である。農商工連携ファンドについては、平成30年度末で現在のファンドの期間が終了することとなるが、金利の状況を見極めながら、ファンドの継続等について検討してまいりたい。
19	第1回審議会	産業基盤の維持拡大のためには高付加価値の新規分野の開発と労働生産性の拡大が必要である。労働生産性向上には企業の中規模化の促進が必要である。	中規模化への方法の一つである事業引継ぎ(M&A)については、【取組みの基本方向】及び【主な施策】において、事業引継ぎ支援センターなどの支援体制の充実・強化や事業承継ネットワークの構築について記載している。今後とも国、関係機関とも連携して、積極的に事業を推進してまいりたい。

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
20	第1回総合部会	富山県が生み出す総付加価値を高めるためには、労働生産性を高めるしかない。そのためには富山県の産業構造の変換が課題である。中規模企業への統合の後押しや下請けから脱却し、消費財としてのブランド化を推進できるような構造にもっていくべきである。	労働生産性の向上及び付加価値の創出については、活力1の【主な施策】の1に記載のとおり、「富山県IoT推進コンソーシアム」を設立したところであり、今後、ワークショップや青年委員会等の活動を通じて、労働生産性の向上に向けて取組みを進めてまいりたい。 また、中規模化への方法の一つである事業引継ぎ(M&A)については、活力6の【取組みの基本方向】及び【主な施策】に【取組みの基本方向】及び【主な施策】において、事業引継ぎ支援センターなどの支援体制の充実・強化や事業承継ネットワークの構築について記載している。今後とも国、関係機関とも連携して、積極的に事業を推進してまいりたい。
21	第1回青年委員会	大都市圏などで県がレンタルオフィスを用意して、県内中小企業に貸し出せば、県外へのビジネス展開がしやすくなるのではないかと。	すでに東京富山会館内において中小企業支援オフィスを設置し、県内中小企業にご活用いただいている。今後も各企業の首都圏への進出や販路開拓等の取組みに対して支援してまいりたい。
22	第1回青年委員会	中小企業向けの設備の補助金や経営支援を引き続き実施してほしい。例えば、社員に語学短期留学やそれぞれの国に短期で滞在し、生活や文化、宗教、ビジネスに触れるような機会があればありがたい。	設備に対する補助金については、国に対して「中小企業ものづくり補助金」の継続を要望していくこととしている。また、海外への留学については、国が「グローバル・ベンチャー・エコシステム連携強化事業」において、中堅・中小・ベンチャー企業等を海外へ派遣し、世界各地のベンチャー・エコシステムを学ぶプログラムを実施していることから、是非活用していただきたい。
23	第1回青年委員会	設備への補助金や助成金については単に金銭的な部分だけではなく、プレスリリースやPRなどが大々的、側面的にできるようなものがあると、ありがたい。	【主な施策】の2において、新商品・新技術の研究開発及び販路開拓への支援について記載しており、これらの支援は新商品・新技術のPRIに活用できるものとしている。 県としても、引き続き、中小企業チャレンジファンド等による新商品・新技術のPRIに努めてまいりたい。
24	第2回活力部会	何が売れるのかといった市場調査を含めた支援が必要。また、国内のパイを奪い合うのではなく、海外展開に軸足を置いた施策が必要。	【主な施策】の2において、海外販路開拓や市場調査、海外マーケティング活動等への支援について記載している。
25	第2回活力部会	中小事業者が輸出に取り組むに当たりネックとなっている関税や商標の問題などの必要なスキルを学んだ上で海外展示会に出展するといったステップがあればよい。	活力6の【主な施策】の2「新事業展開、販路開拓、新商品・新技術の研究開発への支援」、及び活力9の【主な施策】の2の「海外ビジネスにおけるサポートの充実」において、関連する施策を記載している。
26	第2回活力部会	小規模企業の事業承継が大きな問題。事業承継が安定して行われないと、ものづくりの強化につながらないことから、あえて課題として加えてほしい。	【取組みの基本方向】及び【主な施策】において、事業引継ぎ支援センターなどの支援体制の充実・強化や事業承継ネットワークの構築について記載。今後とも国、関係機関とも連携して、積極的に事業を推進してまいりたい。
27	第2回活力部会	今後、小規模企業にとって人手不足と後継者確保がさらに深刻な問題となる。一層の人材確保と後継者対策に力を入れてほしい。	同上
28	第2回活力部会	農商工連携のファンドが十分活用されていない。先進地の事例も参考に県としても農商工連携の一層の推進が必要。	【主な施策】の2において、「農商工連携による新技術・新商品・新サービスの開発と販路開拓支援」を記載。 なお、農商工連携ファンドについては、平成30年度末で現在のファンドの期間が終了することとなるが、金利の状況を見極めながら、ファンドの継続等について検討してまいりたい。

## 7 デザイン力を高めた伝統工芸品産業の新展開とクリエイティブ産業の育成

29	第1回活力部会	富山の特徴を捉えたデザイン力といったものも、それぞれ各企業のフォームが見えてきて、一つのブランド力を持ちつつあるという中で、引き続き、県としてフォローアップをお願いしたい。	【主な施策】の1において、総合デザインセンターを中心としたデザイン相談や商品の共同開発、伝統工芸の技術を活かした商品群の開発などについて記載しており、各企業の取組みを支援し、富山の特徴を捉えたブランド力の強化に対し、引き続き支援を行ってまいりたい。
30	第1回総合部会	ものづくりは富山県の強みなので、ロボット技術ではできない伝統工芸などにも力を入れるなど、県でも若手の育成に注力してほしい。	【主な施策】の4において、「高度な技術又は希少な技法を有する『伝統工芸の匠』による技術の継承に対する支援」や、「伝統工芸における若い後継者への技法、デザイン、マーケティング等の体系的な習得の支援」について記載している。
31	第2回活力部会	プロモーションの強化が一番大切。個人の情報発信力やインターネットへのアクセスの拡大を踏まえ、インパクトのある富山の情報を発信していく必要があり、それが産業振興、食の輸出、観光客の誘致につながる。また、アニメコンテンツを活かしたデザイン力の発信などとのコラボも必要になってくるのではないかと。	プロモーションの強化に関しては、【主な施策】の1として「伝統工芸品などのデザインを活かした魅力的な商品の共同開発と販路開拓」を記載しており、国内外へのPRを推進してまいりたい。 また、コラボレーションについては、【主な施策】の5として「クリエイティブ産業の育成・集積」を記載しており、県内で活動するクリエイターと企業の連携促進などにより、アニメコンテンツを活かしたデザイン力の発信などを推進してまいりたい。

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
32	第2回活力部会	日本の伝統工芸技術は世界で注目を集めている。4大成長戦略分野(折り紙、組木、和紙、からくり技術)のすべてが富山県に揃っているため、伝統的なものを最先端につなげるよう研究を進めてほしい。	【主な施策】の1において、「伝統工芸品産業を含め、幅広い産業におけるデザイン相談や商品の共同開発・開発の推進」を記載しており、伝統工芸と最先端技術を組み合わせた商品開発の支援に対する施策の拡充に取り組んでまいりたい。
<b>8 商業・サービス業の振興と商店街の活性化</b>			
33	第1回活力部会	何か商業関係の新たな政策が弱いのではないかと感じる。富山に出店のため進出してくれる企業は大変数が少ない。商業の活性化はまちづくり、賑わいという点からも大きな問題。	【主な施策】の2において、「若者や女性、移住者など様々な主体と連携した、まちなかエリア全体の活性化の促進」について記載している。 また、活力24の【主な施策】の1及び3において、魅力あるまちづくりや中心市街地への都市機能の集積について記載している。
34	第1回活力部会	富山駅周辺ではチェーン店が増える一方で、昔からの商店が後継者不足もあり廃業しており、富山の良さが失われている。どのように「まちの賑わい」を取り戻すか再検討することが必要。	【主な施策】の2において、後継者問題等の課題解決に向けた取り組みに対する支援やまちなかエリア全体の活性化の促進について記載している。
<b>9 県内企業のグローバル展開への支援</b>			
35	第1回青年委員会	海外展開に関しては、JICAやODAの案件に採択していただいたが、専門知識やスタッフ、財務条件等、いろいろな要件があり少し敷居が高い。もっともっと中小企業が海外展開できるような策があるとありがたい。	【主な施策】の1において、ものづくり総合見本市の開催等による商談機会の創出や、海外からのバイヤー受入れ等による商談機会の充実などを記載しており、県内企業の海外展開支援に総合的に取り組むこととしている。
<b>10 雇用の確保と人材の育成</b>			
36	第1回活力部会	観光人口もさることながら、定住人口の拡大が大事。定住人口の増大という観点から、Uターンの促進に積極的に取り組んでほしい。	【主な施策】の1において、UIJターンの推進に関する施策を記載しており、県外への情報発信などを強化することで、引き続き人材の還流に努めてまいりたい。
37	第1回活力部会	労働人口のうちでも有益な若年から中高年までの間、この辺の人口構成の変化にどう対応するか。	【主な施策】の3において、全ての人が活躍できる雇用環境の整備に関する施策を記載しており、シニア世代の活躍を促進することとしている。
38	第1回活力部会	力強い産業にしていくためには人材の確保が重要。そのためには、この企業で働きたいという魅力を発信することが大切。「富山に来たらカッコいい仕事ができる」と思えるような情報発信が必要。	【主な施策】の2において、県内産業の発展による雇用創出に関する施策を記載しており、成長産業の育成や企業誘致等による魅力ある職場の確保を目指すこととしている。
39	第1回未来部会	新たに外から来てくれた大学生に富山の良さをしっかりと分かってもらうためには、働く場所をしっかりとサポートしなくてはならない。企業のさらなる協力が必要。	【主な施策】の1において、インターンシップに関する施策を記載しており、引き続き県内企業や経済団体と連携しながら、充実したインターンシップの受入態勢の整備に努めてまいりたい。
40	第1回総合部会	新しい仕事、おもしろい仕事、付加価値が高い仕事が富山県でたくさんあるということにならないと、若い人を引き付けることにはならないのかなと思っている。	【主な施策】の2において、県内産業の発展による雇用創出に関する施策を記載しており、成長産業の育成や企業誘致等による魅力ある職場の確保を目指すこととしている。
41	第1回総合部会	大学生を対象にして実施している工場見学では学生の食いつきがいい。富山県の魅力の周知徹底、PRに力点を置くことが必要である。	【主な施策】の1において、県内企業バスツアーの実施などについて記載しており、県内企業の魅力を学生に伝えることで、県外学生のUIJターン就職の促進に努めてまいりたい。
42	第1回青年委員会	働きたい人が働けないという矛盾をなくすための対策が必要。ハローワークなどに行くと、職を探している人は結構おられるが、逆に求人もあふれかえっているのが現実。働きたい人と雇用したい人側のさらなるマッチングの促進などが、今後必要になってくる。	【主な施策】の4において、人材ニーズの急速な変容に対応した人材育成に関する施策を記載しており、急速な社会の変化に対応した職業訓練の実施により、求職者個人の能力を向上させるとともに、ヤングジョブとやま等の各種事業を通じた雇用ミスマッチの解消に取り組むこととしている。
43	第1回青年委員会	大型小売店舗の誘致はすばらしいが、一時的に賃金が上がると、他の事業者から人手不足になったとの声を聞いた。県として対策を講じることができればありがたい。	【主な施策】の2において、県内産業の発展や新しい働き方の導入による雇用創出に関する施策を記載しており、企業誘致についても取り組むこととしている。また、UIJターンも推進することにより、本県産業の人材確保に努めていくこととしている。
44	第2回活力部会	スキル向上のための人材育成やそれを支える教育システムの構築も必要。	【主な施策】の4において、学卒者・離転職者向け職業訓練の実施、オーダーメイド型の在職者訓練の実施などについて記載している。 今後とも産業構造の変化、企業ニーズに即応した職業訓練の提供に努めてまいりたい。

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
<b>11 意欲ある若い担い手の育成・確保と農業経営基盤の強化</b>			
45	第1回活力部会	農業の後継者の育成が最重要課題。若い人の「農業離れ」を止めるため、意欲ある若者の長期研修、外部研修への参加など、自立を促す取組みに支援してほしい。	意欲ある担い手の育成・確保については重要な課題と考えており、【主な施策】の1において、「経営感覚に優れた担い手育成のための青年農業者向け農業経営研修の充実」について記載している。今後、とやま農業未来カレッジの研修内容の充実を図り、後継者育成に努めてまいりたい。
46	第1回活力部会	グローバル化が進展するなか、「誰が、どのような作物を、どの程度作るのか」といった大きなスキームが必要。	【取組みの基本方向】において、米、大麦・大豆、園芸作物等を組み合わせた水田フル活用により、地域農業の成長産業化を推進する旨を記載している。 具体的なスキームについては、関係団体・機関等と連携・調整し、作物別の生産方針を示すこととしている。
47	第1回活力部会	現在は「米・麦・大豆」を中心として、野菜の1億円産地づくりにも取り組み、成果も出てきているが、これからはさらなる品質向上が重要。	【主な施策】の3において、「新産地等における栽培技術の確立と高品質生産の推進による安定生産の確保」について追記し、また、【主な施策】の4において、「富山米新品種『富富富』の高品質栽培技術の普及」、「品質や生産性向上のための機械・施設整備等への支援」を記載している。 各作物の更なる品質向上に向け、引き続き各作物の課題に応じた技術対策や機械・施設整備等の支援を充実してまいりたい。
48	第1回活力部会	温暖化が進む中で、どういった作物をピックアップするかということも考える時期に来ている。	【取組みの基本方向】において、「米、大麦・大豆、園芸作物等を組み合わせた水田フル活用により、地域の特性や創意工夫を活かした地域農業の成長産業化を推進」する旨を記載するとともに、【主な施策】の4において、「需要に応じた作物生産への取組みなど地域戦略の実践への支援」について記載している。 具体的には、JA、試験研究機関、流通関係者等と連携・調整し、気象条件や地域の生産条件及び需要等を踏まえた品目の選定や栽培技術の確立、販路の開拓など、地域の特性等を活かした作物の生産振興を支援してまいりたい。
49	第1回活力部会	10年先の計画として長いスパンで考えたとき、農協における農業経営受託会社、認定農家、集落営農組織など地域全体で考えるような仕組みを構築しなければいけない。	【主な施策】の2において、「収益性の高い経営モデルの確立を目指して農業所得増大に取り組む経営体への支援」を記載している。今後も市町村や関係機関と連携しながら、経営体を含め地域全体で所得増大に向けた施策を充実してまいりたい。
50	第1回青年委員会	将来的に農業に興味を持ってもらう人を増やすためには、子どものころの体験が重要。私自身、非農家から農業に入ったが、多く自然と触れ合い、子どものころに農業と少しでも関わりを持っていると、何かのきっかけで農業に興味を持ち、農業が魅力的に感じられるということもあると思う。	若い担い手の育成・確保は重要な課題であることから、【主な施策】の1において、意欲ある若い担い手の育成・確保について記載している。今後とも、高校生等を対象とした研修の実施や地域と連携した小中学生の農業体験活動への支援等に取り組む、担い手の育成・確保に取り組んでまいりたい。
51	第1回青年委員会	農業カレッジは、県内各地で活躍している人の話を聞きネットワークを構築できたのがよかった。引き続き取組みを実施してほしい。県内全域の農業に触れることは、将来的にもとても有意義なことだと思うので、どんどん宣伝してほしい。	【主な施策】の1において、「とやま農業未来カレッジの研修内容の充実等」を記載している。今後も、カレッジの研修内容を充実させ、多くの研修生を確保できるよう努めてまいりたい。
52	第2回活力部会	集落営農に従事する人の高齢化が進んでいることから、後継者育成に力を注いでほしい。	【主な施策】において、集落営農も含めた農家経営の方向性について記載している。 今後も、とやま農業未来カレッジ等により後継者育成をしっかりと行ってまいりたい。
53	第2回活力部会	稲作を中心としながらも野菜の生産拡大に努めていく。稲作もコシヒカリばかりでなく、新品種「富富富」の普及や外食産業との契約栽培などで品種のバランスを見直し、売れる米作りをめざして、農家の所得向上をめざしてほしい。	【取組みの基本方向】において、「富山米新品種『富富富』の戦略的導入などによる需要に応じた米生産と、非主食用米や大麦・大豆、園芸作物等を組み合わせた水田フル活用により、…地域農業の成長産業化を推進」と修正して記載。また、【主な施策】の3において、「1億円産地づくりの加速化」、「多様な園芸生産振興への支援」を記載し、さらに、【主な施策】の4において、「需要に応じた作物生産」、「富山米新品種『富富富』の普及」を記載している。 今後、新品種「富富富」や業務用米の需要の確保など需要に応じた米生産とともに、収益性の高い園芸生産に向け、施策を充実してまいりたい。
<b>12 農業経営の効率化と高付加価値化の推進</b>			
54	第1回審議会	豊かな自然環境と豊富な水資源を活かした農林水産業が今後成長することが考えられる。農業では適地適作の観点から、米作を発展させ、例えば粉食に適した米の開発研究が期待される。	【主な施策】の2において、「消費者や実需者のニーズに対応した水稻などの新品種の開発と普及」を記載している。 具体的な開発内容については、今後検討してまいりたい。
55	第1回青年委員会	コシヒカリを超える新品種にも期待するが、高アミロース米、低アミロース米など他県が取り組んでいないものに挑戦してはどうか。例えば東南アジアの人々を対象にして販売するなどできればよいのではないか。	同上

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
56	第2回活力部会	農業と工業がもっと融合・高度化していけば、生産性の向上に結びつくのではないかと。	【主な施策】の2において、「工業等の他産業と連携し省力化や高品質化等を図るためのICT・ロボット技術の開発と実証・普及による『とやま型水田スマート農業』の推進」を記載している。
<b>13 食のとやまブランドの確立と地産地消、国内外の市場開拓</b>			
57	第1回活力部会	農産物の輸出の問題について、海外のマーケットでも全国からいろいろな米が入ってきており、海外でも産地間競争のような現状になっていることから、質的な差別化を念頭に置く必要がある。	【主な施策】の4において、「海外向け商品の開発や販路開拓活動への支援」を記載しており、マーケットインの視点から、海外需要に対応した付加価値の高い商品の開発・生産の支援等で対応してまいりたい。
58	第1回活力部会	農業に限らず、生産性を向上させるには、域内・域外の交流を活発にしていける必要がある。輸出(域外交流)では、特に対EUとしてハサップ(HACCP)対応がポイントになり、これに対応する倉庫、食品加工施設の整備も必要。	【主な施策】の4において、「海外での販売を目的とした国際認証(HACCP等)の取得支援」を追記しており、引き続き、事業者に対する支援を図ってまいりたい。
59	第1回活力部会	海外では、東京や大阪のイメージはあっても、地方の認知はまだ弱い。この時期に一步先に出て、数ではなく、高付加価値の物を通して積極的に「トヤマ」の名前を海外に売り込むことで、例えば、海外でそれを食べた方が「富山の魚は富山に来ればもっと安く、おいしく食べられる」と思ってもらえることにより、インバウンドの取込みにつながって、富山に人が集まり、消費も増えるという良いサイクルが生まれるのではないかと。	活力13の【主な施策】の4において、「SNSなど多様な媒体を活用した情報発信による国内外での認知度向上」を記載しており、海外の見本市でのPR等を実施し、県産品の認知度向上を図ってまいりたい。 また、活力15の【主な施策】の3において、「水産物の輸出やインバウンド消費の拡大を目的とした『富山のさかな』の海外向け情報発信」を追加し、外国人旅行客の誘客や水産物輸出の促進につながる施策を推進してまいりたい。 さらに、重点戦略において、富山の魅力、存在感をアピールするグローバル展開を推進していくこととしている。
60	第1回青年委員会	県内産の農作物が県外産より値段が安くつくことがあり、生産者のモチベーション低下になる。市場の流通の機能を変えないと食のブランドとしての本来の農産物PR等がうまくいかないのではないかと。	【主な施策】の2において、県内外に向けた食材等の展示・商談会の開催、多様な販売ルートの開拓などについて記載している。これらの商談会等を通じて県産農林水産物等の販路開拓を推進してまいりたい。
61	第1回青年委員会	コシヒカリに次ぐ新品種の開発がだいぶ進んでいるようで、とても楽しみにしている。立山に守られた豊かな大地とおいしい水で育てたお米は、きっと注目を集められると思うので、ブランドづくりには特に力を入れていただきたい。	【主な施策】の1において、富山米新品種「富富富」の生産・販売戦略の構築や、市場評価の把握、PR活動の実施について記載している。これらを通じて「富富富」のブランド化を推進してまいりたい。
62	第2回活力部会	「富富富」という名称をお米以外にも展開していければよい。	【主な施策】の1において、富山米新品種「富富富」のブランド化を推進するとともに、富山県産ブランドを意味する言葉としての「ふふふ」の活用を検討したうえで、普及・定着を図ってまいりたい。
63	第2回活力部会	プロモーションの強化が一番大切。個人の情報発信力やインターネットへのアクセスの拡大を踏まえ、インパクトのある富山の情報を発信していく必要があり、それが産業振興、食の輸出、観光客の誘致につながる。また、アニメコンテンツを活かしたデザイン力の発信などとのコラボも必要になってくるのではないかと。	【主な施策】の4において、「SNSなど多様な媒体を活用した情報発信」について記載しており、本県の食について、多様な情報発信に努めてまいりたい。
<b>14 森林の整備と林業の振興、県産材の活用促進</b>			
64	第1回審議会	林業では、CLTやバイオマスエネルギーなど県内の森林資源がシームレスに循環していく産業基盤を作ることが必要である。	【取組みの基本方向】において、「森林施業の集約化や木材生産コストの低減、再造林の推進など持続可能な森林経営に向けた取組みの強化」と「県産材の生産・流通・加工体制の整備と県産材の需要拡大による林業の成長産業化」を記載するとともに、【主な施策】の1及び2において、個別の具体的施策を記載している。 今後とも、川上から川下に至る関係者の連携のもと、計画的な主伐・再造林による森林資源の循環利用をしっかりと進めてまいりたい。
65	第2回審議会	人口減少社会においては、第一次産業がどう受け継がれ、発展していくかという観点に立つ必要がある。農業は集落営農や生産法人といった会社組織があるが、林業にはそのような組織がなく、若い後継者もいないことから、組織をどのように育てていくかが大事。	【取組みの基本方向】において、「長期的視点に立った経営感覚に優れた林業事業体の育成」を記載するとともに、【主な施策】の3において、「林業事業体の経営を担う人材の育成・確保」を記載している。 今後、地域林業を担う林業事業体の経営基盤の強化と担い手の育成・確保に向けた施策を充実してまいりたい。
<b>15 水産業の振興と富山湾のさかなのブランド力向上</b>			
66	第1回活力部会	国ではIRの目玉がインバウンド、そのうちの 하나가食事でないかと。「富山の魚」はインバウンドへ持っていったいい。特定の魚を英語・中国語で積極的に売り込むべき。	【主な施策】の3において、「水産物の輸出やインバウンド消費の拡大を目的とした『富山のさかな』の海外向け情報発信」を追加し、外国人旅行客の誘客や水産物輸出の促進につながる施策を推進してまいりたい。

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
67	第2回活 力部会	インバウンド旅行者に対して富山の魚をもっと強烈に売り込むよう、多言語での発信を進めるべき。	同上
68	第2回審 議会	衰退する漁業をどうするか。自然が相手ということもあり、安心して生活できないために若い人の就業が少なく、後継者もいないので、どのようにして若い人たちにもっと漁業を知ってもらおうかという課題がある。	【主な施策】の4において、とやま漁業担い手センターによる漁業就業希望者への求人・求職情報の提供や「富山水産業カレッジ」(仮称)の設置等を記載しており、新規就業者の育成・確保につながる施策の推進に努めてまいりたい。
<b>16 北陸新幹線の早期全線開業による新ゴールデンルートの形成</b>			
69	第2回活 力部会	北陸新幹線の金沢以西の整備促進に向けて、関係府県との連携を一層強化するというような項目を盛り込んでほしい。	【主な施策】の1の2ポツ目において、「関西を含めた沿線府県、経済界などとの連携強化による(敦賀・大阪間の…早期全線整備の促進)」を記載している。
<b>17 新幹線の開業効果の持続・深化と三駅を核とする広域交流等の促進</b>			
70	第1回活 力部会	交通基盤はある程度確立されている。今後もう少し強化していくことは必要だが、これをどのようにうまく活用していくのかという視点、取組みが大切。	【主な施策】の4において、新幹線駅等の交通拠点と観光地を結ぶバス等の運行支援について記載しており、引き続きこれらの確保・充実にに向けて支援してまいりたい。
71	第1回総 合部会	外国人観光客の県内移動をどうするか。公共交通の充実なども考えてもらいたい。	活力26の【主な施策】の3において、公共交通機関での外国人受入対応力の向上を記載している。 また、活力17の【主な施策】の4において広域交通ネットワークの充実について記載しており、外国人を含めた利用者の実情やニーズに対応して、引き続き、駅や空港等と観光地を結ぶ2次交通の充実に努めてまいりたい。
<b>20 日本海側総合的拠点港としての伏木富山港の機能強化</b>			
72	第1回活 力部会	大型クルーズ客船の受入れにおいて、九州ではバスが足りないのでは各県と連携して周遊する形をとっている。富山県も北信越の各県と連携し、共同での商品づくりや海外への発信を行うことが大切。	【主な施策】の3において、オプションツアーにおけるクルーズ客向けのおもてなしの提案について記載している。近隣県と連携した広域的なオプションツアーの造成や船会社等への提案については、今後、検討してまいりたい。
73	第1回活 力部会	クルーズ船の受入はこの先まだまだ伸びると言われており、また、クルーズデスティネーションとして富山はヒンターランドを持っている寄港地であることから、少しインセンティブをつぎ込んでも寄港してもらおうことが大切。	伏木富山港は魅力ある背後観光地に恵まれていることから、まずは寄港していただくことが重要であると考えており、【主な施策】の3において、船会社、旅行会社に対する助成の充実について記載している。今後、船会社等からの意見などを踏まえ、助成制度の更なる充実に努めてまいりたい。
74	第2回活 力部会	伏木富山港のクルーズ振興に関して、船会社や乗客に対するメリットについて引き続き書き込んでもらいたい。	【取組みの基本方向】において、「クルーズ客船乗船客へのおもてなしの充実」を記載するとともに、【主な施策】の3において、船会社、旅行会社等への助成の充実や、オプションツアーにおけるクルーズ客向けのおもてなしの提案について記載している。
<b>21 国内外との航空ネットワークの維持・充実と空港の活性化</b>			
75	第1回活 力部会	インバウンド取込みの観点で、北東アジアのLCC(利用率10%)の活用・誘致はチャンスがある。	【主な施策】の2において、「環日本海・アジア地域を対象とした新たな国際定期便・チャーター便の調査・研究」を記載しており、今後、LCCも含めて取り組んでまいりたい。
76	第1回青 年委員 会	インフラ整備に今後ぜひ、これまで以上に力を入れていただきたい。富山きとときと空港の整備は、海外との結びつきを維持する点で重要。	【主な施策】の4として、空港施設等の適切な維持管理と計画的な更新について記載している。 空港施設を活用した利用促進策に取り組み、国内・国際の航空ネットワークの維持・充実に努めてまいりたい。
77	第2回活 力部会	富山空港における搭乗率向上のための隣県と連携した取組み、LCCの拡大や九州・沖縄方面の新規航路開拓を進めてほしい。	【主な施策】の2において、「飛騨・信越地域との連携」を記載するとともに、【取組みの基本方向】において、「関西、九州・沖縄などへの新規路線やチャーター便の開拓、LCCやリージョナルジェットの活用」を記載している。
<b>23 選ばれ続ける観光地づくり ―海のあるスイスを目指して―</b>			
78	第1回活 力部会	ダイナミックな観光を5年あるいは10年計画でやっていかねばいけない。富山は地形的にも位置的にもいいところがあるので、10年あるいはそれ以上の計画で進めた方が、投資金額の回収などで有益ではないか。	本総合計画は10年後を見据えたものであり、中長期的な視点で各観光施策に取り組んでまいりたい。 なお、本県の観光振興を総合的かつ戦略的に推進するための基本計画である「新・富山県観光振興戦略プラン」は、平成27年から31年までの5年を対象期間として策定している。

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
79	第1回活力部会	「海のあるスイス」、「立山・黒部の世界ブランド化」は正しいやり方かなと思う。スイスから学べる場所は、二次交通の充実や、外国人に対するレールウェイパスといった外国人優遇策がかなりとられている点であり、こういったところもあわせて学んでいくべき。	活力23の【主な施策】の2において、「主要駅・空港と観光地を結ぶ二次交通の整備・利便性の向上」を、また、活力26の【主な施策】の1として『立山黒部』の世界ブランド化に向けたプロジェクトの推進について記載している。国内外の旅行者から選ばれ続ける観光地となるよう、スイスなどの先進地の取り組みなども参考にして、各種施策に取り組んでまいりたい。
80	第1回審議会	新幹線効果も落ち着き観光もだんだん足が遠のいた感がある。選ばれ続けるためには自然を活用した魅力ある観光地づくりが重要である。	【主な施策】の3として「富山らしい魅力の創出」について記載している。新幹線開業効果の持続・深化に向けて、立山黒部や世界遺産五箇山、富山湾など富山らしい魅力を高める取り組みを行ってまいりたい。
81	第1回青年委員会	他の県でやっていない取り組みをしてはどうか。例えば魚が美味しい富山県ということで漁港を観光地したり、観光大使がバンドを組んで富山県をPRする曲を作って日本中、世界中にPRするような尖った施策が必要。	【主な施策】の4として「戦略的なプロモーション」について記載している。本県の魅力ある観光地の活性化のため、富山県DMOである(公社)とやま観光推進機構や市町村、観光事業者等と連携し、PRの内容について積極的に検討してまいりたい。
82	第2回活力部会	プロモーションの強化が一番大切。個人の情報発信力やインターネットへのアクセスの拡大を踏まえ、インパクトのある富山の情報を発信していく必要があり、それが産業振興、食の輸出、観光客の誘致につながる。また、アニメコンテンツを活かしたデザイン力の発信などとのコラボも必要になってくるのではないかな。	【主な施策】の4において、「的確なマーケティングに基づく、ターゲットの特性に応じた媒体選定による効果的な情報発信」を記載し、また、新たに「Wi-Fi環境の整備やSNSの活用促進等による観光客側からの情報発信の促進」を追記している。今後も、本県の魅力を活かした戦略的なプロモーションに取り組んでまいりたい。
83	第2回活力部会	子供たちが喜ぶ物を何か設置できれば、一層人が集まってくるのではないかな。	【取組みの基本方向】において、本県ならではの観光資源の掘り起こし・磨き上げについて記載している。3月の一部開館時から人気の富山県美術館の屋上庭園をはじめとした新たな素材も活用しながら誘客に努めてまいりたい。
84	第2回活力部会	観光について県としてきりと光る特徴を出すために、もっと具体的に数値などを明記した政策目標とした方がよい。具体的な目標を設定しないと全部が平均点以上で終わってしまう。	【県民参考指標候補案】に、観光がもたらす経済波及効果を測る指標の一つである「観光消費額」や「延べ宿泊者数」など、具体的な指標を設定することとしており、これらの指標の結果を分析しながら、各種施策について戦略的に取り組んでまいりたい。
85	第2回活力部会	本当に旅行者の満足度を調査するのであれば、インターネットの一部のデータだけではなく、空港や駅などでアンケート調査するなど、生のデータ収集を行うべき。	【主な施策】の1において、富山県DMOである(公社)とやま観光推進機構や市町村・観光事業者等との連携による観光地域づくりのさらなる推進について記載している。今後もインターネットや道の駅、宿泊施設等でのデータ収集を行うなど、生のデータ収集に努めてまいりたい。
86	第2回活力部会	情報発信だけでなく、観光資源自体をブラッシュアップがする施策が必要。	【主な施策】の1において、富山県DMOである(公社)とやま観光推進機構や市町村・観光事業者等との連携による観光地域づくりのさらなる推進について記載しており、観光資源の掘り起こし・磨き上げについて、官民一体となってさらに推進してまいりたい。
87	第2回活力部会	旅行の形態が団体旅行から個人旅行に切り替わってきている。観光客が気軽に相談できる場所の設置など、形態の変化に対応したおもてなしについて考えるべき。	【主な施策】の2において、広域観光拠点である新幹線駅等における観光案内所の機能充実について記載している。今後とも、国内外の個人旅行者に対し、きめ細かな対応ができる体制を整備してまいりたい。
88	第2回活力部会	人同士が向かいあう「おもてなし」だけでなく、Wi-Fi整備やタクシー運行のアプリ化などデジタル面もおもてなしの1つである。着地された方への受入環境の整備という部分でデジタルの活用を盛り込むべき。	活力23の【主な施策】の4及び、活力26の【主な施策】の1においてWi-Fi環境の整備について追記しており、本県を代表する観光地である立山黒部での携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消に向けたプロジェクトを推進することとしている。
<b>24 うるおいのあるまちづくりと中心市街地の賑わいの創出</b>			
89	第1回審議会	人口の社会増のためには、中心市街地を活性化させ、多様で充実した消費生活を楽しめることが必要である。	【主な施策】の3において、市町村の中心市街地活性化基本計画等の事業実施に対する支援について記載している。
<b>25 国際的ブランド「世界で最も美しい富山湾」の活用と保全</b>			
90	第2回活力部会	「世界で最も美しい富山湾を見るならばここ」と誘導するものの整備が必要。	【主な施策】の4において、「景観や食など富山湾そのものの魅力のほか、サイクリングやマリンスポーツなどの新たな魅力のさらなる発信」を記載している。引き続き、富山湾の魅力の戦略的な情報発信に努めてまいりたい。

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
<b>26 「立山黒部」の世界ブランド化と戦略的な国際観光の推進</b>			
91	第1回青年委員会	今後個人の観光客が増加する中、「場所」を決めて周遊する観光スタイルが大勢となるため、より広域的な目で観光客を捉える視点が必要。	活力23の【主な施策】の2、活力26の【取組みの基本方向】や【主な施策】の2において、広域観光の促進に関する施策を記載している。近隣自治体と連携して、魅力的な広域観光周遊ルートの形成促進に取り組んでまいりたい。
92	第2回活力部会	立山黒部は団体客を想定した動線の名残が残っている。個人の旅行客が洗練した気持ちで移動できるよう、もっと上質化していくことが必要。	活力26の【主な施策】の1として『立山黒部』の世界ブランド化に向けたプロジェクトの推進について記載している。これまでの団体客を念頭に「鑑賞型・通過型」の観光から、近年は多様なニーズをもつ個人客が増えていることから、選ばれ続ける観光地として、これらに対応するよう努めてまいりたい。
<b>27 産業観光をはじめとした多彩なツーリズムの展開</b>			
93	第1回活力部会	移住に関心を持つ人が多い。新幹線開業により東京圏が通勤圏となった。交通基盤を活かして、ただ見せるだけの産業観光から長期滞在型の体験する産業観光への取組みを強化したらどうか。例えば、「すし学校」として富山に留学するという視点で、滞在期間中に富山で勉強した後世界で活躍するような人材を広げ、定住せず県外にいる人だけでも「県民化」させるという人口対策も考えてみたらどうか。	【主な施策】の1において、「体験可能施設や滞在型施設の積極的な情報発信による体験型産業観光の促進」を追加して記載している。 また、移住に関しては、未来24(「くらしたい国、富山」)の発信による移住の促進)において関連施策を記載しているところであり、ご提案の趣旨も参考にしながら、引き続き移住の促進に努めてまいりたい。
94	第1回活力部会	映画・アニメが観光に与える影響力は非常に大きいことから、今後もロケ地誘致、フィルムコミッションの取組みをさらに進めるべきである。	【主な施策】の2において、「映画・ドラマなどの制作誘致及び支援の推進」、「ロケ地を活用した富山の魅力発信やロケ地めぐりの促進」について記載しており、引き続き、映画・ドラマ等の制作誘致とロケツーリズムの促進に努めてまいりたい。
95	第1回青年委員会	修学旅行は特に民泊が人気。民泊について国で議論になっているが、ガイドラインや条例などしっかり整備してほしい。県でも外国人インバウンドに広がっていく可能性がある。	【主な施策】の3において、教育旅行の促進について記載している。教育旅行受入に係る民泊については、今後、県のホームページ等において、県内の取組み状況や法的な取扱い等について紹介する予定。
96	第1回青年委員会	高岡の伝統工芸の各工場をめぐる見学ツアーを実施しているが、美大出身の若者などが興味を持ち参加したりしている。こういった産業観光は高岡ファンを増やし、後継者不足の解消にもつながると思っている。	【主な施策】の1において、産業観光をテーマにしたツアーの実施等による魅力発信等について記載している。今後も、本県の歴史ある伝統工芸などの魅力を活かした産業観光の振興に取り組んでまいりたい。
<b>28 観光人材の育成とおもてなしの心の醸成</b>			
97	第2回活力部会	富山の良さを県民に気づいてもらうための内向きの政策があってもよいのではないかと。	【主な施策】の3において、「地域の歴史・風土を理解するための、郷土史学習などのふるさと教育の推進」を記載している。県民が富山の良さに気づき、郷土への誇りや愛着を育むことができるよう努めてまいりたい。
98	第2回活力部会	交通機関や物産店のスタッフも観光客と接するので、そういった分野の人にも観光人材づくりの施策が及ぶようにしてほしい。	【主な施策】の1において、とやま観光未来創造塾による人材育成やタクシー乗務員を対象とした研修の実施について記載しており、引き続き、観光を担う人材の育成に努めてまいりたい。
<b>29 豊かな食の磨き上げと発信</b>			
99	第2回活力部会	富山の自然や食材を利用した「食のバレー」を作っていけばどうか。	【主な施策】の3として、『食』をキーコンテンツとした観光誘客の促進について記載している。本県の新鮮な海の幸をはじめとした食の魅力は、評価も高く、市町村とも連携しながらさらなる磨き上げや魅力発信を行ってまいりたい。
<b>30 富山のブランドカアップに向けた戦略的展開</b>			
100	第1回青年委員会	優秀な人に来てもらうには、会社の魅力を企業自ら引き上げることも必要だが、県としても県の魅力を高め、ブランディングして知名度を上げるなどバックアップしてほしい。	【主な施策】の1において、「富山県推奨とやまブランド」のブランド力強化の取組みを、【主な施策】の3において、「首都圏における情報発信の取組み」を記載している。 今後とも、県のブランド力のさらなる強化に努めてまいりたい。